

東濃農林事務所の普及活動状況

令和5年5月

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■直売所 **みずなみ野菜づくり塾開講**

5/11に、「令和5年度みずなみ野菜づくり塾」開講式と第1回講座が開催され、野菜づくりに関心のある8名が参加した。

開講式では、主催者であるJAとうとの他、瑞浪市、東濃農林事務所の担当者から受講者に対し、直売所出荷への期待を込めた挨拶があった。講座では、座学として農業普及課が野菜の土づくりのポイントについて説明し、その後、体験農場でトマトとナスの定植実習を行った。野菜づくり塾は12月まで毎月1回、計8回開催する予定で、野菜づくり全般を学ぶ場となっている。

現在、きなあた瑞浪出荷者協議会員は約210名であるが、高齢者が多く、将来的に直売所を維持発展するためには、新たな出荷者の育成確保が必要のため、講座実施を支援していく。



【野菜づくり塾実習の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■土岐地区農業普及事業推進協議会 **営農連絡会議を開催**

土岐地区農業普及事業推進協議会(会長:JAとうと組合長)は、5/24にJAとうと本店において、各市、JA、農林事務所の関係者を集めた第1回営農連絡会議を開催した。

会議では、普及の重点活動計画や各機関の計画についての説明や意見交換のほか、県の施策や地域の就農連携、スマート農業推進体制、さらには家畜防疫体制等についても情報共有した。

今年2月、3年ぶりに対面での同会議が再開し、関係機関の取り組みの相互理解を深めるよい機会となっており、今後も定期的で開催することで、地域農業の維持発展につなげる。



【営農連絡会議の様様】

■学校給食 **多治見市食育推進課との連携**

多治見市では、地元農産物の学校給食への供給を積極的に進めているが、5/31にたまねぎの試験栽培を実施している「営農組織 諏訪農林」のほ場において、関係者による生育状況調査を行った。

当日、一部区画のたまねぎを刈取り、ほ場全体の収穫量を推定した結果、概ね目標収量を達成する見込みとなった。仮に、供給量が不足する場合には、地元農産物直売所の協力のもと追加提供を行う予定。今後も栽培指導を通じて、生産者と多治見市との連携を深めていく。



【現地検討の様子】